

「その運気の波というのは具体的にどういふものですか？」マジョリアルが真剣な眼差しで質問をする。「そうじゃな、それは、目の前の空間の中に存在する可能性の波動」とも言えるかな」2人はマグワートの言葉の意味を理解し切れず、無言のまま眉間に皺を寄せて彼を見詰めた。「人生には変えられることと変えられないことがある。変えられないこと、というのは主に魂が背負ってきた宿命やカルマ、そしてミツシヨンであり、それが肉体に閉じ込められた形で自分という意識として存在している。そして、目の前には魂自らが生まれる前に作成してきた人生のフローチャート、またはタイムラインと表現されている無限の可能性が詰まった空間がある。人間は肉体という容器の中に入っていて限界や境界線がある様に見えるけれど、目の前に存在している空間と隔てられている訳ではない。人間を構成している一番小さいもの、素粒子と空間の中に存在する素粒子は繋がっていて、互いに影響を与え合っている。つまり、変えられない宿命は変えられる運命によって、空間内のフローチャートの何処にでも辿り着くことが出来る。その宿命と運命とを結び付ける振動が運気の波と言える訳じゃ」マグワートの説明を聞いて、2人の頭上にはハテナマークが列を為して並んでしまった。

その様子を見てマグワートはこう言った。「では、もっと別の説明の仕方をしてしよう。例えば、その人が玉葱、人参、ジャガ芋というものを持つて生まれているとする。それはその人の宿命じゃ。さて、そこから何をやるか。それがその人の人生模様、つまりは運命を決める手立てじゃ。持つて来た人生の材料である宿命に、目の前の空間に在るものをプラスして、何かを作る訳じゃ。例えば、肉やカレー粉を加えてカレーを作るか、ベジタブルソースでホワイト



シチューにするか、またはマヨネーズと塩コショウでポテトサラダという手もある、或いは肉や白滝を入れて肉じゃがにすることも出来る。何をやるかはその人の自由じゃ。つまり、人生は自分次第「空間に在るものは何ですか？」「空間には何でもあるのかい？」「2人は矢継ぎ早に質問をした。「空間」というのは潜在世界のこと、そこには何でもある。但し、自分用の人生のフローチャートは一つしかない。そして、そのフロー

チャートは自らの魂が生まれる前に作成して、そこに用意したものじゃ」「なんだ、じゃあ結局人生は生まれる前に決まっちゃってるんじゃないかさ」「いやいや、フローチャートは無限のチョイスという可能性の塊じゃ」「でも、生まれる前に自分で作ってきたのなら、全て解っちゃってるんじゃないですか」マジョリアルも少しだけ責め口調になった。「確かに魂は全てを既に知っているし、全てを了解していると言える。ただ、どれを選ぶか迄は魂は決めてはいない。無数の可能性をそこに用意したただけで、チョイスは生まれた後の自分に任せるんじゃ。それは魂が自分自身に与えた試練、そしてそれを乗り越えていく過程の中に存在している光に繋がる為の愛なんじゃよ」「試練と愛？」2人は口を揃える。マグワートは軽く頷き、「重要なことは、どれを選んで、何処に辿り着こうとも人生に正しい間違いもない、ということじゃ。人生がカレーにはなろうともシチューになろうとも、それを美味しく戴く、ただそれだけのことじゃ。愛は受容じゃからな。」「何を選んでも同じなら、選ぶ必要はないじゃないか」「人生に於いて大切なことは結果ではない。経過じゃ。もしも結果が全てなら、人は死ぬという結果の為に何故わざわざ生まれて来るんじゃ？何故生き続けるんじゃ？それは人生の経過、つまり生きるということの中に光の粒子があるからじゃよ」

### チャネリング相談

**Q** 先月お盆についてのご説明がありました。お盆とお彼岸はどう違うのでしょうか。どちらもお墓参りをすべきですか？しないと先祖から祟られますか？アメリカ人の夫の先祖のお墓はありませんが、どうすべきですか？(Tustin 在住 Sさん)

**A** さっくり言うと、お盆というのはご先祖様をご自宅にお迎えする期間で、お彼岸はこちらからお墓に参る期間です。そして、諸説ありますが、お盆というのは仏教発祥の習慣であり、お彼岸というのは、どうやら日本独自、或いは日本独自の進化の色合いが濃い風習である様です。

お彼岸は春分と秋分の日を中心とした期間で、太陽(この世)の象徴としての真東から上がり、彼岸(あの世)の象徴の真西に沈むことと、昔はその日に昼夜の時間が同じになると教わりましたが、実際には昼のほうが長いのですが、それ等のことから、此岸と彼岸について深く考える、イコール生き死にについて真摯に考え、命を頂いたことを先祖に感謝し、自身のこの世での修行を深める、という様な意味があるそうです。

お盆でんすあひみかみ  
\*神道として、天照大神に拝むことを日願と言うということとも関連しているという説もあります。

また、お墓参りはご先祖様への感謝と共に、ご先祖が関わった全ての人に対しての感謝とご供養の意味もあると思います。ご先祖様が祟る、ということはないですが、大勢のご先祖様全てが清廉潔白とは限りませんので、意図するしないに関わらず、関わった方に迷惑が掛かったこともあるでしょう。その方々からの祟りの様な念はあるかも知れませんが、その意味ではご供養が必要となることもあると思います。お墓がない場合にも、心からの感謝の念とご供養のお気持ちがあれば、それは天に通じる筈です。